

校長室から応援メッセージ(5)

令和6年10月4日(金)

詳説『ただいま浪人』

皆さん、こんにちは。朝晩涼しくなり、さすがに秋に入った感じがします。猛暑で知らぬ間に体力を消耗していると思います。ご自身の体をいたわりながら机に向かってくださるようお願いいたします。共通テスト出願締め切りが近づき、いよいよですが、最後まで駆け抜けるように頑張る、それだけです。

さて前回、作家：遠藤周作さんの『ただいま浪人』という小説を紹介しました。皆さんは、今まさに「ただいま浪人」。しかし、これは大学生、社会人になっても同じで、人生はずっと浪人としてあるのだ・・・、と申し上げました。

人生を十分生きてきたはずの私ですが、それでもやり残したことがあるのでは・・・とか、そもそもやりたいことに自分は巡り会えたのか・・・という思いがこの歳になっても付き纏います。いい人生だったと言うためには、何をやったか、とは別の観点を持たなければ、と私はうすうす感じ始めています。

私は浪人、浪人生という言葉が好きです。一つのことに向かい努力しているイメージがあるからです。特に浪人生というと特定の到達点ではなく、そこから始まる新しいスタートラインに立つことを目指しているように思えて、そこに無限の広がりを感じ、自分のことでもないのになぜか気持ちの高ぶりを覚えます。

かけがえのない自分の、かけがえのない人生です。恐る恐る、ではなく、堂々と歩いていきましょう。人生には到達点はなく、その時その時の出発点があるだけです。自分を信じて一日一歩、前回も申し上げましたが、これが「ただいま浪人」の心意気です。「ただいま浪人」中の皆さんに、私は限りない愛着を込めて「よっ、その浪人生!」と呼びかけて励ましたい、そんな思いに駆られています、それは遠慮して心の中で励まします。皆さんの健闘を祈ります。